

新しい時代に挑む

自然災害などから市民の生活を守るほか、人口減少や少子化の克服に向けた「こども施策の充実」、ニューノーマルに対応した「デジタル化の加速」など、新しい時代に挑みます。

少子化対策と子育て環境の充実

子ども医療費無料化を18歳まで延長

令和5年12月から子ども医療費助成の対象年齢を18歳の年度末まで拡大し、子育て家庭の経済的な負担を減らすほか、病気の早期発見や治療を支援します。

妊娠・出産を支援

出産や育児の不安を減らし、安心して子育てができる環境を整えるため、相談、訪問指導、健康教室などを行うほか、「すくすく・サポート」で、保健師などが全ての妊婦と面談して、産前・産後をサポートし妊娠期から切れ目なく支援します。また、妊娠や出産・育児の相談ができる機会を増やすなど、妊娠届出時から、妊婦や子育て家庭に寄り添い「伴走型相談支援」を充実します。



ヤングケアラーの支援体制を強化

専門の相談窓口を設け、ヤングケアラー・コーディネーターを配置し、相談対応や学校などの関係機関と連携し、ヤングケアラーの早期発見と適切な支援につなげます。また、ヤングケアラーの負担軽減につながる公的サービスの利用調整や家事援助ヘルパーの派遣などを行います。

交通の利便性向上とまちの賑わい創出

松山市駅前広場整備

公共交通の利便性を高め、中心市街地ににぎわいをつくるため、令和8年秋の完成を目指して市駅前広場を整備します。また、安全な歩行空間の確保と良好な景観の維持のため、市役所第4別館前に立体駐輪場を整備します。



「こども本の森 松山」を整備

坂の上の雲ミュージアムに増設中の「こども本の森 松山」が7月にオープンします。未来を担うこどもたちのため、本に親しんでもらえる「お気に入りの場所」を作ることを目指します。

経済の活性化と雇用環境の整備

スタートアップ支援を強化

社会課題を解決しながら経済活性化をけん引し、急速に成長することで、多くの雇用を生み出すスタートアップを創出します。スタートアップと連携し市内企業が持続的に成長するため、総合サイトを立ち上げるなど、学生の起業や市内企業とのマッチングを支援します。



人材の確保や育成に取り組む企業を支援

人材不足や物価高騰など厳しい経営環境の中でも、人へ投資し、成長しようとする企業を後押しするため、大切な経営資源である従業員の確保や育成を支援します。

安全・安心で持続可能なまちづくり

ゼロカーボンシティ松山の実現

太陽光発電や蓄電池システムなどの設置、電気自動車や燃料電池自動車の導入に補助するなど、暮らしの脱炭素を進めています。これらにより、市内の二酸化炭素排出量を削減し、2050年に温室効果ガス排出量「実質ゼロ」社会を目指します。

ふれあい収集

市内全域でごみ出しが難しい高齢者などを対象に、自宅前まで市職員が訪問してごみを収集する「ふれあい収集」を行っています。ごみ出しの負担を減らすほか、必要に応じて声掛けし、孤立化を防ぎます。



子育て世帯の移住促進

子育て世帯の移住を促すため、県外から移住する人の引っ越し費用の一部を補助しています。また、子育て世帯で移住を検討している人へ、積極的に情報を発信し、子育て世帯から「選ばれるまち」を目指します。

より優しく より強い まつやまへ

～一人でも多くの人を笑顔に～

まちづくりは、市民の皆さんが主役になってはじめて達成でき、そのためには、住んでいる人が自分たちの住むまちに「愛着」や「誇り」を持つこと、そして、「笑顔」があることが大切です。

松山市は、道後温泉や松山城など歴史的な資源はもちろん、俳句をはじめ、ことば文化、豊かな自然など先人たちが残してくれた数多くの「たから」があります。こうした「たから」を市民の皆さんと一緒に磨きながら、新しい魅力づくりに取り組んでいます。

国の重要文化財である道後温泉本館は、昨年、明治27年の改築から130周年を迎え、また、平成31年からの保存修理工事を経て、約5年半ぶりに全館で営業を再開しました。

今年7月には、坂の上の雲ミュージアムに「こども本の森 松山」がオープンします。ミュージアムを設計した建築家の安藤忠雄さんから、「未来を担うこどもたちに本に親しんでもらいたい」と寄附いただきました。子どもたちが「なりたい自分」を見つける「お気に入りの場所」になることを期待しています。

松山市駅前の再開発は、広場の整備も順調に進んでいます。昨年10月に、完成した東側ロータリーにバス乗り場が集約されました。「交流広場」は、有効活用を市民の皆さんとワークショップで検討し、いよいよ来年秋に完成予定です。

これからも、「現地・現場」を大切に、「市民目線」を大切に、「より優しく より強い まつやま」の実現に向けて、子どもからお年寄りまで、一人でも多くの人が「笑顔」になり、幸せを実感できるまちを、市民の皆さんと一緒に作り上げたいと考えています。

松山市長 野 志 克 仁



The development of a city is never complete without its residents taking the leading role. To make this happen, it is important for the people who live there to love and be proud of their city and that the city is filled with smiles.

In addition to historical resources such as Dōgo Onsen and Matsuyama Castle, Matsuyama City has a culture of language as seen in haiku, abundant nature, and many other treasures bequeathed by our predecessors. By working with the people of Matsuyama to add sparkle to these treasures, we give them a fresh appeal.

Last year marked the 130th anniversary of the Dōgo Onsen Honkan (Main Building), a designated national important cultural property, since its reconstruction in 1894. Preservation and repair work began again in 2019, and after about five and a half years, the entire building reopened for business.

In July this year, the Children's Book Forest Matsuyama is set to open at the Saka no Ue no Kumo Museum. Architect Tadao Andō, designer of the museum, donated this forest of books wishing for children, who have the future in their hands, to become familiar with books. The forest will one day surely become their favorite place to discover who they want to be.

Redevelopment of the plaza in front of Matsuyama City Station is also well underway. In October last year, bus stops were consolidated in the completed rotary on the east side of the station. The Kōryū Hiroba (Exchange Plaza) is scheduled to be completed in the fall of next year after workshops were held with local residents to discuss its effective use.

Going forward, my plan is to continue working together with our citizens with a special focus on what is happening locally on-site and how residents are seeing things, in order to create a kinder and stronger Matsuyama where people of all ages can smile and feel fulfilled.

Katsuhito Noshi
Mayor
City of Matsuyama

市長公約

《 3つの取組姿勢 》

- ① 感染症や自然災害などさまざまな困難から「市民の暮らしを守ります」
- ② 「現地・現場」を大切に、「市民目線」を大切に「市民が主役のまちづくりを進めます」
- ③ ウィズコロナ、人口減少、脱炭素、デジタル化など「新しい時代に挑みます」

《 4つの柱 》

- ① 少子化対策と子育て環境の充実
- ② 交通の利便性向上とまちの賑わい創出
- ③ 経済の活性化と雇用環境の整備
- ④ 安全・安心で持続可能なまちづくり



花園町通りのリニューアル

- 2017(平成29)年
花園町通り「リニューアル」
- 2018(平成30)年
「2018年度グッドデザイン賞」受賞
- 2019(令和元)年
「全国街路事業コンクール国土交通大臣賞」受賞
「土木学会デザイン賞2019最優秀賞」受賞

- 2020(令和2)年
「愛媛経済同友会美しいまちづくり賞」受賞
- 2021(令和3)年
「はばたく商店街30選」選定
- 2023(令和5)年
花園町西通り商店街のアーケードを撤去

